

流れ

群馬大学での循環器外科の診療・研究・教育体制の確立を目指して

阿部 知伸¹

1 群馬県前橋市昭和町 3-39-22 群馬大学大学院医学系研究科循環器外科学

文献情報

投稿履歴：

受付 令和元年 5 月 28 日

採択 令和元年 6 月 6 日

論文別刷請求先：

阿部知伸

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町3-39-22

群馬大学大学院医学系研究科循環器外科学

電話：027-220-8240



はじめに

平成 29 年 3 月 1 日付けで群馬大学総合外科学講座循環器外科の新たに設けられた教授職に着任致しました。

私は平成 4 年の名古屋大学医学部の卒業です。名古屋第二赤十字病院で初期の心臓血管外科のトレーニングを末梢血管、先天性も含めて受けたのち、卒後 6 年目より弁膜症・大動脈基部の外科で世界で最も重要な施設のひとつ、Toronto General Hospital へ臨床留学する幸運を得ました。帰国後は名古屋大学と中部地方の市中病院で成人心臓外科の診療と臨床研究をしてまいりました。私の研究上の興味を中心は留学経験からも弁膜症にあります。市中病院勤務が長いので臨床的には守備範囲が広いものと思っています。

群馬大学には第二外科第四代の森下靖雄教授以来 10 年以上心臓血管外科領域専門の教授が不在でした。無理からぬこととして、近年の群馬大学の心臓血管外科領域の診療・研究活動は、少人数で頑張っていたらいいのですが、控えめな部分があったと思います。このたび循環器外科領域に新たに教授職を大学が公募されたのは、大学の心臓血管外科の診療・研究・教育を今までより一回り充実させ、地域医療に真に貢献できる講座とする意図と理解しております。

循環器外科の診療

循環器外科は臨床が学術活動の中でも大きな比重を占める診療科で、たとえ大学病院であってもある程度の規模の診療活動は研究・教育のリソースとしても欠かせません。

循環器外科、あるいは心臓血管外科がカバーする領域として、成人心疾患、先天性心疾患、大血管疾患、末梢血管疾患があります。1950 年代、人工心肺の開発を以てほとんど新規の一領域として始まった心臓外科ですが、最近の十数年で成人心疾患と先天性心疾患はおのおの心臓外科の中での subspecialty として分かれた感があります。大動脈、末梢血管については米国流の伝統では血管外科と心臓外科は異なる Specialty ですが、本邦では血管外科が独立した教室として存在する大学の関連施設以外では成人の心臓と大動脈、末梢血管を全て扱う場合が多いです。

群馬大学循環器外科は当面、従来の診療を踏襲して成人心疾患、大血管疾患、末梢血管疾患を扱ってまいります。成人心疾患につきましては弁膜症、虚血性心疾患、そして開心術と同様の補助手段を必要とする胸部大動脈が大きな三つの領域となります。

弁膜症については私の臨床留学中のメンター、タイロン・デーヴィッド教授が世界の弁膜症外科、大動脈基部の外科の権威であることもあり、私の興味を中心で

弁形成術など、よりよい長期成績をもたらす durable な手術を追求して行きたいと考えています。大動脈弁形成術は現在の心臓外科のフロンティアの一つで、私のトレーニングバックグラウンドからして安全に配慮しつつ先端を行きたいと思います。大動脈弁狭窄症の手術は現在経カテーテル治療の登場で大きな転機を迎えています。日々世界中で蓄積しつつあるデータから大学病院として科学的に正しい診療を、また患者さんの価値観を重視しながら進めてまいりたいと思います。

虚血性心疾患、大動脈瘤は全国的世界的に手術成績はどんどん向上しており、個人的にも経験を積む中手術のスタイルが完成しつつあります。ここ十年で大動脈治療にパラダイムシフトをもたらした血管内治療も立石渉助教を中心に先進的なところまで行っており、科学的に最適な治療を追求してまいりたいと思います。

今日、心臓血管外科診療を維持することは、なかなか簡単なことではありません。クオリティーコントロールはもはや心臓血管外科を実践してゆくうえで避けて通ることはできません。治療のモダリティは左心補助装置、血管内治療など日ごとに多様化し、各種施設基準はどんどん複雑化し、専門医教育のハードルも高くなってきています。心臓血管外科の診療は私が大学を卒業したころはほとんど採算度外視で大学病院が行うようなもので、その後、どこでも行え採算もとれる部門として大きく市中病院、私立病院に重心が移りました。が、またいま、診療の複雑化高度化とともに大学病院の重要性が否応なく増してきているのを感じます。

着任後の一年間となります 2018 年度の手術件数は、2017 年度の 60 例から 144 例へと飛躍的な増加となりました。

臨床研究

弁膜症の長期成績は私の興味の中心です。以前よりメタ

アナリシスや臨床的転帰のコンピューターシミュレーションを行っています。弁膜症手術の長期成績には抗血栓療法が重要な要素です。今日、東アジア人と欧米人との抗血栓療法に対する反応の人種差が明らかになってきており、重要なテーマに関わっているものと自負しています。半分海外育ちの私にとって「海外のエビデンスを日本でのプラクティスにあてはめてよいのか？」というのはずっと切実なテーマでありつづけています。

また高周波超音波プローブを用いた心表面エコーによる冠動脈の描出の研究は海外でも評価を受けており、さらに展開してゆきたいと考えています。

急性大動脈解離で頸動脈が急性閉塞している症例への直達バイパス手術も世界初と認識されています。これも先駆けて発表したものの務めとして臨床的な意義を引き続き追及してゆきたいと思っています。

基礎研究

群馬大学総合外科学講座の基礎研究をしている先生方の協力を得て、免疫染色手法を応用した弁膜症の分子生物学的メカニズムの研究を開始し、科研費を取得し、近日中に最初の成果が出せるものと思っています。また理工学府は心補助装置の研究を続けておられ、パートナーとして研究に協力しております。

今後の目標

緊急性の高い病態を守備する心臓血管外科を持つ施設の第一の務めは、地域の心臓血管外科手術の需要にお応えすることで、それは大学病院でも変わりません。研究・教育について 200 万人は心臓血管外科医を育てられるはずの背景人口であり、輝かしい実績をあげられている群馬大学の他の基礎・臨床講座に恥ずかしくない分野に育つよう、全力で取り組みたいと思います。